OLYMPUS®

インストールマニュアル

OLYMPUS Stream [Ver. 2.1]

画像解析ソフトウェア

本書におけるすべての著作権は、Olympus Soft Imaging Solutions GmbH に属します。
Olympus Soft Imaging Solutions GmbH では、本書の情報の正確性および信頼性について万全を期すよう努めていますが、本書に関するいかなる事項についても、明示的または黙示的を問わず、一切保証するものではありません。
本書のいかなる部分も、事前に Olympus Soft Imaging Solutions GmbH の書面による許可を得ることなく、いかなる目的であれ電子的または機械的を問わず、いかなる形態またはいかなる方法によっても、無断で複製、転送してはなりません。

その他、本書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

© Olympus Soft Imaging Solutions GmbH
All rights reserved

Version:510_UMA_Install-OlyStream21-Orinoco_jp_01_03082015

目次

1 OLYMPUS Stream のマニュアル 4
2 システム要件 5
3 はじめに 6
4 ソフトウェアとカメラドライバのインストール 7
4-1 ソフトウェアのインストール 7
4-2 ソフトウェアのアクティベーション 11
4-3 カメラの接続とカメラドライバの選択 20
5 ソフトウェアの開始と設定 21
5-1 ソフトウェアの開始 21
5-2 ソフトウェアの設定 21
5-3 最初の画像の取り込み 25
6 サービスアップデートの使用 27
6-1 サービスアップデートのインストール 28
7 ソフトウェアのディアクティベーション 30
8 ソフトウェアのアンインストール 33

1 OLYMPUS Stream のマニュアル

OLYMPUS Stream ソフトウェアのマニュアルは、クイックセットアップガイド、本書 (インストールマニュアル)、オンラインヘルプ、ユーザーマニュアル、データベースマニュアルから構成されています。

クイックセットアップガイドは、本ソフトウェアに同梱されています。ここには、ソフトウェアのアクティベーションやシステム要件に関する重要な情報が記載されています。

本インストールマニュアルには、OLYMPUS Stream のインストール、設定、アンインストール方法が記載されています。システム要件と、ソフトウェアのアクティベーション、ディアクティベーションに関する追加情報も記載されています。

ユーザーマニュアルには、製品とユーザーインターフェイスに関する説明が記載されています。操作手順の詳しい説明が記載されているため、本ソフトウェアの重要な操作手順をすぐに学ぶことができます。本ソフトウェアのインストールフォルダに PDF 形式のマニュアルがあります。

オンラインヘルプでは、本ソフトウェアのすべての要素の詳細なヘルプが提供されています。コマンド、ツールバー、ツールウィンドウ、およびダイアログボックスごとにヘルプトピックがあります。ヘルプを表示するには、ショートカットキー [Shift + F1] を押します。または、ダイアログボックスが表示されている場合、ダイアログボックスの右上にある疑問符をクリックすると、そのヘルプページが表示されます。

本ソフトウェアを初めて使用するユーザーは、ユーザーマニュアルで製品の概要を理解し、細かな疑問についてはその後オンラインヘルプを参照することをお勧めします。

データベースマニュアルは、OLYMPUS Stream データベースのユーザーおよび管理者が参照するマニュアルです。データベースの動作と、データベースの設定および管理方法についての説明が記載されています。本ソフトウェアのインストールフォルダに PDF 形式のマニュアルがあります。現在、データベースマニュアルは、英語、ドイツ語、フランス語版が提供されています。上記の言語以外の OLYMPUS Stream 製品をインストールした場合は、英語の PDF ファイルがインストールされます。

2 システム要件

OLYMPUS Stream を実行するには、以下のシステムが必要です。

CPU	Intel Core i5, i7 (推奨) Intel Core 2Duo (最小)
オペレーティングシステム	Microsoft Windows 8.1 Pro (32 ビット / 64 ビット) Microsoft Windows 7 Ultimate / Professional SP1(32 ビット /64 ビット) Microsoft Windows Server 2012 Microsoft Windows Server 2008 R2 Microsoft Windows Server 2008
RAM	8 GB (推奨) 3 GB (最小)
グラフィックカード	2048 MB RAM (推奨) 512 MB RAM (最小)
画面解像度	1280x1024、32 ビットグラフィックカード
ハードディスクの空き容量	本ソフトウェアをインストールするには、ハードディスクに 2.4 GB の空き容量が必要です。OLYMPUS Stream をインストールした PC に、OLYMPUS Stream で作成したデータも保存する場合は、適切な容量 (少なくとも 50 GB) を備えたハードディスクが必要になります。
ポート	デュアルレイヤ DVD ドライブ お使いのカメラ用の USB 3.0 ポート、USB2-ICH7 または FireWire (IEEE1394) ポート 電動またはコード式顕微鏡およびステージ、レボルバ、ズームエンコーダ用 USB2-ICH7 ポート、COM ポート (RS232)。詳細については、対応する各デバイスのマニュアルを参照してください。
レポート作成用ソフトウェア	OLYMPUS Stream でレポート操作を行なう場合、レポートの表示および編集用に MS Word、MS PowerPoint、MS Excel が必要です。このため、Microsoft Office 2013 (SP1)、2010 (SP2) または 2007 (SP3) が必要となります。OLYMPUS Stream をインストールする前に、Microsoft Office をインストールしてください。 **OLYMPUS Stream Start** ソフトウェアパッケージの場合は、レポート生成機能が搭載されていないため、Microsoft Office は不要です。 (**OLYMPUS Stream Start** から MS Excel に計測結果をエクスポートする場合は、PC に MS Excel をインストールしておく必要があります。)
Web ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 8、9、10、11
データベース管理システム	Microsoft SQL Server 2014 Express Microsoft SQL Server 2012 Express Microsoft SQL Server 2008 Express Microsoft SQL Server 2005 Express (Microsoft SQL Server 2012 Express は、OLYMPUS Stream セットアップからインストールできます。)

3　はじめに

1) 本ソフトウェアをインストールするには、有効なライセンスキーが必要です。ライセンスキーを含む証明書は紛失しないようにしてください。

2) インストールに使用するユーザーアカウントが「コンピュータの管理者」として登録されていないと、本ソフトウェアをインストールすることはできません。
ユーザーアカウントが「制限付きアカウント」で登録されている場合は、「コンピュータの管理者」に変更してください。
（ユーザーアカウントの登録については、お使いのコンピュータの説明書を参照してください。）

3) 画像データが予期せぬ損傷を被る場合があります。データは定期的にバックアップしてください。

4) 注 : ライブ画像を表示中にカメラケーブルを抜くと、ライブ画像が停止します。カメラケーブルを再度差し込んでも、画像は停止したままとなります。この場合、OLYMPUS Stream を再起動し、再度ライブ画像を開始します。

5) OLYMPUS Stream を同時に複数起動することはできません。

6) タイムラプス画像の取り込み時には、PC でウィルススキャンを実行しないでください。ウィルススキャンにより PC のパフォーマンスが悪化して、画像を適切に取り込めない可能性があります。

7) 本ソフトウェアをインストールする前に、制御対象の各デバイスのインストールマニュアルを読んでください。また、顕微鏡など接続したデバイスの操作方法に関する情報については、該当するデバイスのマニュアルを参照してください。

8) インストール時に Code meter というソフトウェアがインストールされます。この Code meter はソフトウェアのライセンス管理をしているため、不用意にアンインストールや、フォルダおよびファイルの削除・名前の変更を行わないでください。ソフトウェアが起動しなくなる場合があります。

9) Windows に標準で設定できるシステムの保護(復元ポイントの作成)については、Code meter で管理しているソフトウェアのライセンス管理に影響する場合があります。復元機能によりシステムを復元後、ライセンスの認証に失敗した場合は、オリンパスの販売店へご連絡ください。

4 ソフトウェアとカメラドライバのインストール

⚠ PC に カメラを接続する前に、OLYMPUS Stream をインストールしてください。

⚠ ソフトウェアをインストールする際は、管理者として PC にログオンしてください。

このセクションでは、Windows 7 でのインストール手順について説明しています。Windows 8 を使用している場合でも、手順はほとんど変わりません。

4-1 ソフトウェアのインストール

インストール時には、以下を準備します。

- DVD-ROM
- メインのライセンスキーを含む証明書
- 追加のソリューションのライセンスキーを含む証明書 (追加のソリューションの購入者のみ)
- USB メモリ等の記憶媒体 (本ソフトウェアをインストールする PC がインターネットに接続できない場合のみ)

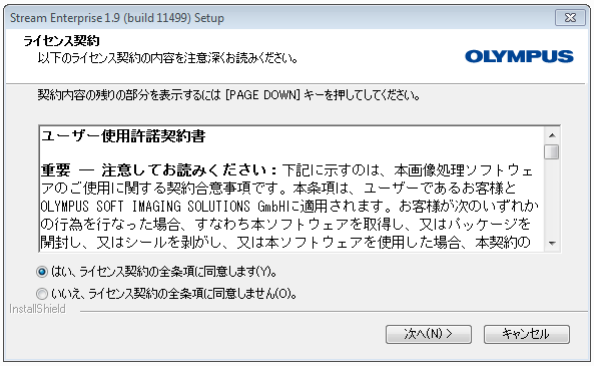
1) 実行中のアプリケーションがある場合は、すべて閉じます。

2) 提供された DVD を DVD ドライブに挿入します。
   ➤ インストールプログラムは自動的に開始します。PC の自動実行機能が無効である場合は、setup.exe ファイルをダブルクリックします。
   ➤ [処理の選択] ダイアログボックスが表示されます。

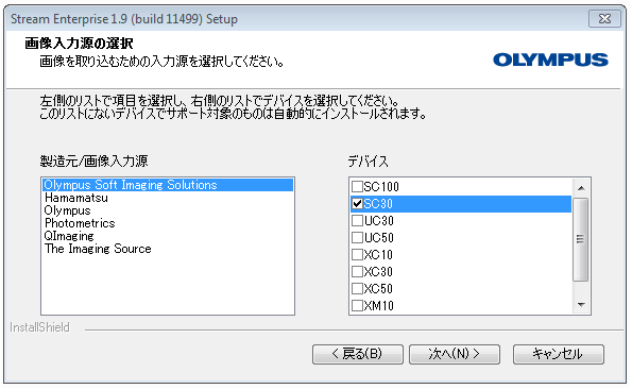
3) [イメージングソフトウェアのインストールまたはメンテナンス] オプションを選択します。
   ➤ 次のダイアログボックスが表示されます。
   ➤ [処理の選択] ダイアログボックスは、バックグラウンドで開いたままとなっています。ソフトウェアをインストールした後で、このダイアログボックスの [サンプルデータまたはツールのインストール] オプションを選択し、データやツールを追加でインストールすることができます。

4) ソフトウェアのアクティベーションを行います。アクティベーションについては、11 ページの「ソフトウェアのアクティベーション」を参照してください。

5) ソフトウェアのアクティベーションが正常に終了したら、引き続きソフトウェアのインストールを行います。
   ➤ インストールウィザードにより、ソフトウェアのインストールが実行されます。インストールウィザードの指示に従い、必要な情報を入力して、[次へ >] ボタンをクリックして処理を続けます。
   以下に、インストールウィザードのいくつかのダイアログボックスを示します。

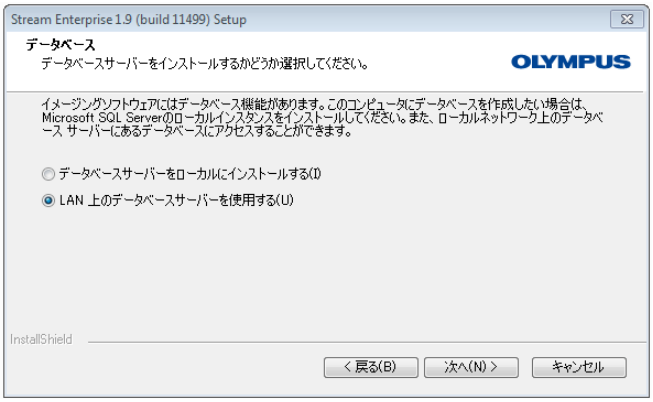


6) ライセンス契約を読みます。同意する場合は [はい ...] オプションを選択し、[次へ >] ボタンをクリックします。



7) [画像入力源の選択] ダイアログボックスが表示されるまで、指示に従って処理を進めます。このダイアログボックスには、本ソフトウェアパッケージでサポートされているすべてのカメラのリストが表示されます。左側の製造元を選択し、右側のリストから OLYMPUS Stream で使用するカメラの横にあるチェックボックスを選択します。複数のカメラを選択できます。

- ➤ DP21 または DP26 カメラを選択した場合、デフォルトの IEEE1394 デバイスドライバがオリンパス固有の IEEE1394 デバイスドライバに置き換えられます。このため、このコンピュータで、標準の IEEE1394 デバイスドライバを必要とする別のデバイスを使用するには、IEEE1394 ボードをもう 1 枚設置する必要があります。
- ➤ ここで FireWire カメラを選択した場合、次の手順で [Thesycon IEE1394 Bus-Hostcontroller] デバイスドライバをインストールするかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。選択した FireWire カメラを使用するには、このデバイスドライバをインストールする必要があります。

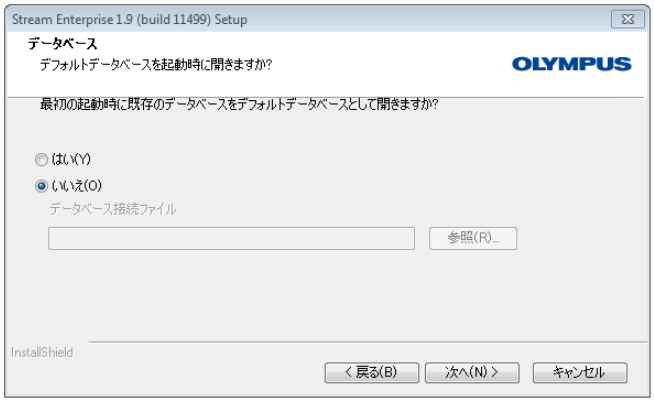


8) [次へ >] ボタンをクリックし、インストールウィザードの指示に従います。[データベース] ダイアログボックスが表示されます。このコンピュータにご自身のデータベース管理システムをインストールするかどうかをここで決定します。

- PC にデータベース管理システムをインストールしない場合は、[LAN 上のデータベースサーバーを使用する] オプションを選択します。たとえば、別の PC がデータベースサーバーとして定義され、すべてのデータベースがネットワーク内で設定されている場合に、このオプションが役立ちます。また、既に PC にインストールされているデータベース管理システムを使用する場合にも、このオプションを選択します。
- PC にデータベース管理システムをインストールする場合は、[データベースサーバーをローカルにインストールする] オプションを選択します。これにより、後でローカルの PC にデータベースを設定できるようになります。このため、インストール時間が長くなります。

➤ この場合、インストールウィザードで [Microsoft SQL Server の設定] ダイアログボックスが表示されます。システム管理者のパスワードを入力します。このパスワードは忘れずにメモしてください。

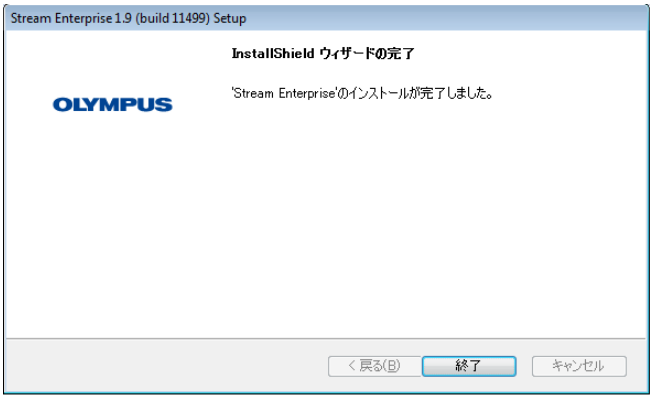
➤ OLYMPUS Stream のインストールが完了した後で、MS SQL Server 2012 データベース管理システムのインストールが開始します。



9) [データベース] ダイアログボックスがもう 1 つ表示されます。標準のデータベースを定義するかどうかをここで決定します。

➤ ここで選択したデータベースが、今後 OLYMPUS Stream を開始した際に自動的に開きます。

10) [次へ >] ボタンをクリックし、インストールウィザードの指示に従います。



11) 左側のダイアログボックスが表示されたら [完了] ボタンをクリックします。

➤ [データベースサーバーをローカルにインストールする] オプションを選択した場合、ここでデータベース管理システムのインストールが始まります。最初に、必要なデータが解凍されます。この処理には数分かかります。次に、[SQL Server 2012 Setup] ダイアログボックスが表示され、インストール進捗状況として現在の情報が表示されます。インストールの最後に、PC の再起動が必要になることがあります。その場合は、再起動してください。

12) インストールの最後に [閉じる] ボタンをクリックします。

4-2　ソフトウェアのアクティベーション

ソフトウェアアクティベーションの目的

これからインストールする、または既にインストールしたソフトウェアを今後ずっと使用できるようにソフトウェアのロックを解除する処理を、ソフトウェアアクティベーションと言います。以前はソフトウェアの不正使用を防ぐためにハードウェアドングルを使用していましたが、現在は電子的にアクティベーションを行うようになりました。通常、ライセンスのアクティベーションはソフトウェアのインストール開始時に実行されます。しかし本ソフトウェアは、インストール後 30 日以内であれば、後からアクティベーションを行うこともできます。ソフトウェアのアクティベーションが完了すると、Olympus 社のセントラルアクティベーションサーバーに登録された有効なソフトウェアライセンスを入手できます。

4-2-1 アクティベーションの方法

アクティベーションの実施方法はインターネット接続の有無と、使用する PC によって異なります。アクティベーションの方法は 3 種類あります。

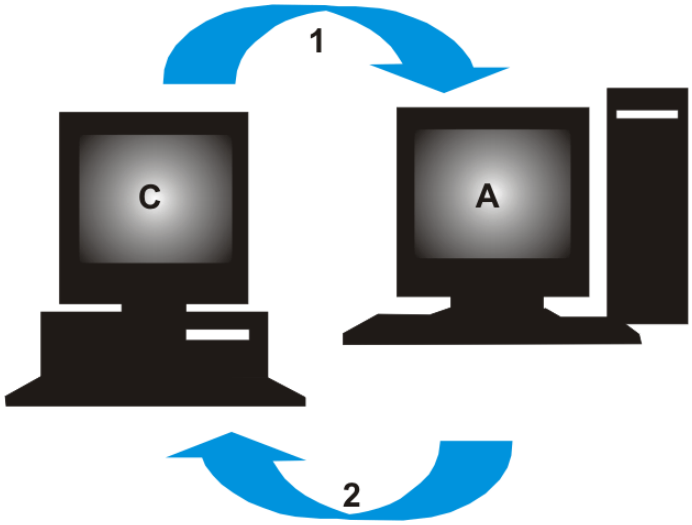
1) インターネットベースでのアクティベーション
   ► ソフトウェアを実行する PC がインターネットに接続されている場合、アクティベーションはインターネット経由で自動的に行われます。もっとも早く手軽なため、ほとんどの場合この方法がとられます。

2) ファイルベースでのアクティベーション
   ► ソフトウェアを実行する PC がインターネットに接続されていない場合、インターネットに接続されている別の PC を使ってアクティベーションを行います。

3) コードベースでのアクティベーション
   ► 文字コードの転送と入力によりアクティベーションを実行することもできます。スマートフォンなどの携帯機器の使用、またはアクティベーションホットラインへ電話することで実行できます。入力するコードが非常に長いので、この方法はインターネットに接続している PC がどうしても見つからない場合にのみ使用してください。

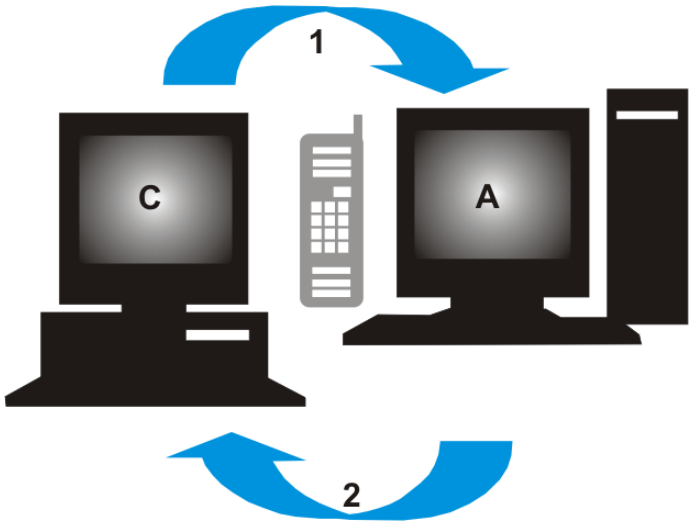
いずれの方法でアクティベーションを行っても、クライアント PC とアクティベーションサーバー間で交換されるデータは基本的に同じです。データには個人情報は一切含まれません。

ソフトウェアアクティベーションの際に交換されるデータ



C = クライアント PC、**A** = Olympus アクティベーションサーバー、**1** = 要求ファイル、**2** = プロセスファイル

インターネットベースのアクティベーションでは、要求ファイル (RAF ファイル) が、自動的にインターネット経由で Olympus のセントラルアクティベーションサーバーに送られます。ライセンスが識別可能で有効化できるものであれば、サーバーは自動的にプロセスファイル (PAF ファイル) を送り返します。



C = クライアント PC、**A** = Olympus アクティベーションホットライン、**1** = コード A、**2** = コード B

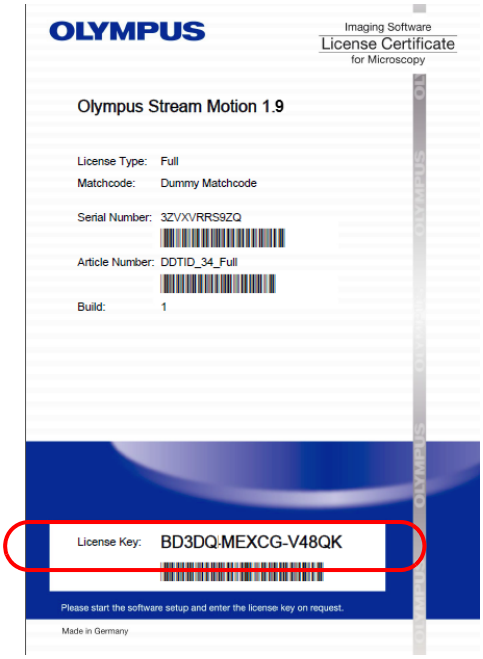
ファイルベースのアクティベーションでも要求ファイルが転送されます。しかしこの方法では、ファイルはアクティベーションサーバーへの手動アップロードおよびダウンロードにより転送されます。

コードベースの有効化では、有効化ホットラインへの電話などを利用し、文字コードを交換します。

ライセンスキーの重要性

ソフトウェアをインストールする際にはライセンスキーの入力が必要となります。有効なライセンスキーがなければ、ソフトウェアをインストールできません。

ライセンスキーは本ソフトウェアに同梱されたライセンス証明書に記載されています。



ライセンス証明書のイラスト。ソフトウェアのインストールに必要なライセンスキーは楕円で囲まれています。

アクティベーションを実行すると、アクティベーションサーバーがライセンスの有効性を確認します。ライセンスが有効であった場合、アクティベーションサーバーは確認ファイル (インターネットベースのアクティベーションの場合は PAF ファイル) を送り返します。インターネットに接続した PC であれば、この処理は自動的に行われ、通常数秒で完了します。

1 つのソフトウェアには、対応するライセンスキーが 1 つだけ設定されています。ソリューションと呼ばれるオプションのソフトウェアも一緒に購入した場合、各ソリューション用に別途ライセンス証明書およびライセンスキーが付与されています。インストールの際には、これらのライセンスキーも入力する必要があります。

ソフトウェアをアクティベートするタイミング

ソフトウェアは、インストールしただけでは自動的にアクティベートされません。インストールの際にアクティベートしなかった場合は、インストール後 30 日以内にアクティベートする必要があります。アクティベーションを行わなかった場合、その期間を過ぎるとソフトウェアを使用することができなくなります。この期間中は、アクティベーションを促すメッセージがアクティベーションを完了するまで毎日表示されます。

[ヘルプ] > [ライセンスのアクティベーション] コマンドを実行して、本ソフトウェアのライセンスをアクティベートすることができます。このコマンドは、ライセンスがアクティベートされていない場合にのみ使用できます。

4-2-2 インターネットベースでのソフトウェアアクティベーション

OLYMPUS Stream を使用する PC がインターネット接続されている場合、この PC から直接アクティベーションを実行できます。ライセンス証明書をお手元にご用意ください。

ソフトウェアのインストールを開始すると、自動的に [ライセンスキーの入力] ダイアログボックスが表示されます。

1) ライセンス証明書に記載されたライセンスキーを入力します。
   ➤ ライセンスキーが複数ある場合 (追加のソリューション用など) はすべて入力してください。
2) [次へ >] ボタンをクリックします。

3) 表示された [ライセンスの有効化] ダイアログボックスで、あらかじめ設定されている [今すぐ有効化 (推奨)] オプションのまま [次へ] ボタンをクリックします。
4) [有効化サーバーへの接続] ダイアログボックスで [サーバーへの接続] ボタンをクリックします。
   ➤ PC がアクティベーションサーバーに接続し、データが交換されます。この処理はバックグラウンドで行われます。この処理には数秒かかります。この処理は中断しないようにしてください。
   ➤ アクティベーションサーバーに接続できない場合は、オリンパスの販売店へご連絡ください。
   ➤ ソフトウェアのアクティベーションが完了すると、左側のダイアログボックスが表示されます。
   ➤ HTML ファイルがデスクトップに保存されます。このファイルには、ライセンスに関する重要な情報が記載されています。

5) この HTML ファイルを印刷します。また、このファイルを別の PC に保存して、いつでもこの情報を参照できるようにしておきます。
6) [次へ] ボタンをクリックして、ソフトウェアのインストールを続けます。

4-2-3 ファイルベースでのソフトウェアアクティベーション

OLYMPUS Stream を実行する PC がインターネットに接続されていない場合、インターネットに接続されている別の PC を使ってアクティベーションを行います。

そのためには 1 台目の PC にソフトウェアをインストールし、2 台目の PC （インターネット接続あり) を使って Olympus 社のセントラルアクティベーションサーバーとデータを交換します。ライセンス証明書をお手元にご用意ください。

ソフトウェアのインストールを開始すると、自動的に [ライセンスキーの入力] ダイアログボックスが表示されます。

1) ライセンス証明書に記載されたライセンスキーを入力します。
   ➤ ライセンスキーが複数ある場合 (追加のソリューション用など) はすべて入力してください。
2) [次へ >] ボタンをクリックします。
3) 表示された [ライセンスの有効化] ダイアログボックスで、あらかじめ設定されている [今すぐ有効化 (推奨)] オプションのまま [次へ] ボタンをクリックします。
4) [有効化サーバーへの接続] ダイアログボックスで [サーバーへの接続] ボタンをクリックします。
   ➤ PC は次にアクティベーションサーバーへの接続を試みます。接続に失敗するため、左側の [有効化ファイルの交換] ダイアログボックスが表示されます。

5) [要求ファイルの保存] ボタンをクリックします。インターネット接続されている 2 台目の PC からアクセスできる場所に要求ファイルを保存します (ネットワークドライブ上や USB メモリなど)。
   ➤ 要求ファイルの拡張子は RAF (request activation file) です。
   ➤ [有効化ファイルの交換] ダイアログボックスはこの後の操作で使用しますので、閉じないでください。
6) 2 台目の PC に移動し、インターネットブラウザを起動して、次のアドレスを入力します。

http://www.olympus-sis.com/file-activation/

   ➤ 次のサイトが表示されます。
   ➤ 手順 6)～10) の間はインターネットブラウザを閉じないでください。また、インターネットブラウザ上で [進む]、[戻る]、[更新] の操作をしないでください。

7) 必要に応じて、サイトの言語を変更できます。

8) [参照 ...] ボタンをクリックして、要求ファイルを選択します。[アップロード >] ボタンをクリックします。
   ► サイトが更新されます。この処理には数秒かかります。

9) [プロセスファイルのダウンロード ..] ボタンをクリックします。ダウンロードしたファイルを、OLYMPUS Stream をインストールした PC からアクセスできる場所に保存します (ネットワークドライブ上や USB メモリなど)。
   ► ダウンロードしたファイルの拡張子は PAF （processed activation file) です。
   ► プロセスファイルのダウンロード完了後、ユーザー登録を行うことができます。ユーザー登録を行うと、今後電子メールで製品情報を受け取ることができます。[ユーザー登録] ボタンをクリックするとユーザー登録ページへ移動しますので、必要事項を記入してください。

10) インターネットブラウザを閉じます。

11) OLYMPUS Stream をインストールした PC に移ります。

12) 表示されている [有効化ファイルの交換] ダイアログボックス上で、[処理されたファイルの読み込み] ボタンをクリックします。ダウンロードしたファイルが保存されているフォルダを参照します。
   ► ダウンロードしたファイルのロードが完了すると、[次へ] ボタンを選べるようになります。

➤ ソフトウェアのアクティベーションが完了すると、左側のダイアログボックスが表示されます。

➤ HTML ファイルがデスクトップに保存されます。このファイルには、ライセンスに関する重要な情報が記載されています。

13) この HTML ファイルを印刷します。また、このファイルを別の PC に保存して、いつでもこの情報を参照できるようにしておきます。

14) [次へ] ボタンをクリックして、ソフトウェアのインストールを続けます。

4-2-4 コードベースでのソフトウェアアクティベーション

OLYMPUS Stream をインストールした PC にインターネット接続がなく、インターネット接続されている PC が他にもない場合は、文字コードを転送、入力することでアクティベーションを行います。スマートフォンなどの携帯機器の使用、またはアクティベーションホットラインへ電話することで実行できます。

入力するコードが非常に長いので、この方法はインターネットに接続している PC がどうしても見つからない場合にのみ使用してください。

電話を使ってソフトウェアをアクティベートする場合、ソフトウェアをアクティベートする PC のそばで電話を使用するようにしてください。カスタマーサポートセンターの担当者にコード A を読み上げ、その後新たに生成されるコード B を PC に直接入力します。

ソフトウェアのインストールを開始すると、自動的に [ライセンスキーの入力] ダイアログボックスが表示されます。

1) ライセンス証明書に記載されたライセンスキーを入力します。

➤ ライセンスキーが複数ある場合 (追加のソリューション用など) はすべて入力してください。

2) [次へ >] ボタンをクリックします。

3) 表示された [ライセンスの有効化] ダイアログボックスで、あらかじめ設定されている [今すぐ有効化 (推奨)] オプションのまま [次へ] ボタンをクリックします。

4) [有効化サーバーへの接続] ダイアログボックスで [サーバーへの接続] ボタンをクリックします。
   ► PC は次にアクティベーションサーバーへの接続を試みます。接続に失敗するため、左側のダイアログボックスが表示されます。

5) [このオプションは避けてください : 手動による有効化は、このコンピュータでファイル交換が不可能である場合にのみ行います] チェックボックスをオンにします。

6) [次へ >] ボタンをクリックします。
   ► 次のダイアログボックスが表示されます。

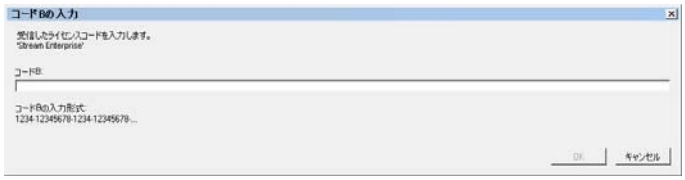
7) アクティベーションホットラインへは営業時間内にご連絡ください。ご利用の地域から通話可能な電話番号がダイアログボックスに表示されます。
   ► 通話料はお客様負担となります。

8) カスタマーサポートセンターの担当者に、電話を使ってソフトウェアライセンスをアクティベートすることを伝えます。

9) コード A を読み上げます。
   ► または、スマートフォンなどの携帯機器を使用して次のサイトを開きます。

(http://www.olympus-sis.com/code-activation/)

   ► このサイトでコード A を入力後、[送信] ボタンをクリックします。
   ► コードの誤入力にご注意ください。
   【特に間違いやすい例】
   ・I（大文字のアイ）と l（小文字のエル）または 1（数字）
   ・O（大文字のオー）と 0（数字）
   ・"-"（ハイフン）も忘れずに入力してください。



10) コード B を入手後 [ライセンスの手動有効化] ダイアログボックスで [コード B] ボタンをクリックします。
   ➤ [コード Bの入力] ダイアログボックスが表示されます。

11) コード B を入力後、[OK] ボタンをクリックします。

12) ライセンスが複数ある場合は、全てのライセンスに対してコード B を入力するまで、手順 9) ～ 11) を繰り返します。

13) [ライセンスの手動有効化] ダイアログボックスで [次へ] ボタンをクリックします。

14) ソフトウェアのアクティベーションが完了すると、左側のダイアログボックスが表示されます。
   ➤ HTML ファイルがデスクトップに保存されます。このファイルには、ライセンスに関する重要な情報が記載されています。

15) この HTML ファイルを印刷します。また、このファイルを別の PC に保存して、いつでもこの情報を参照できるようにしておきます。

16) [次へ] ボタンをクリックして、ソフトウェアのインストールを続けます。

4-3 カメラの接続とカメラドライバの選択

USB カメラではなく FireWire カメラを使用する場合、カメラと PC の接続方法は少し異なります。いずれも基本的な手順は同じです。支給されているケーブルの一端をカメラのジャックに差し込みます。ケーブルのもう一端は、PC の対応するボードのポートに差し込みます。

ただし、カメラの種類によってこれを行うタイミングが異なります。

- インストール時に USB カメラを選択した場合、OLYMPUS Stream のインストールを終えた後でカメラを接続します。通常、カメラドライバはこのときに自動でインストールされます。
- インストール時に FireWire カメラを選択した場合、OLYMPUS Stream のインストールの最後に、FireWire ドライバを設定するようメッセージが表示されます。次の手順で、カメラを PC に接続し、設定を行います。通常、カメラドライバもこのときに自動でインストールされます。

➤ カメラの接続の詳細については、お使いのカメラのマニュアルを参照してください。

カメラドライバを改めてインストールする

⚠ カメラを PC に接続した際に [新しいハードウェアが見つかりました] ダイアログボックスが表示された場合、必要なカメラドライバが見つからなかったことを意味します。ここで、ドライバをインストールすることができます。以下の手順を実行してください。

1) [ソフトウェア検索のため、Windows Update に接続しますか？] が表示されたら、[いいえ、今回は接続しません] を選択し、[次へ >] ボタンをクリックします。

2) 次のダイアログボックスで [一覧または特定の場所からインストールする (詳細)] を選択し、[次へ >] ボタンをクリックします。

3) 次のダイアログボックスで、[検索しないで、インストールするドライバを選択する] を選択し、[次へ >] ボタンをクリックします。
   ➤ 次のダイアログボックスに適切なカメラドライバが表示されます。

4) カメラドライバを選択し、[次へ >] ボタンをクリックします。
   ➤ MS Windows の警告メッセージが表示される場合があります。
   このダイアログボックスに表示される情報は、インストールには重要ではありません。[続行] ボタンをクリックします。

5) [新しいハードウェアが見つかりました] ウィザードの指示に従います。

6) 最後のダイアログボックスで [完了] ボタンをクリックします。
   ➤ 正しいカメラドライバが正常にインストールされました。

⚠ OLYMPUS Stream DVD を DVD ドライブに挿入し、[サンプルデータまたはツールのインストール] を選択すれば、いつでもカメラドライバをインストールすることができます。次の手順で [FireWire ドライバの設定] を選択し、インストールウィザードの指示に従います。

5　ソフトウェアの開始と設定

5-1　ソフトウェアの開始

1) ソフトウェアを開始するには、MS Windows デスクトップ上のこのアイコンをダブルクリックします。

2) OLYMPUS Stream の初回起動時には、本ソフトウェアの設定およびキャリブレーションが必要です。
   ➤ これについて詳しくは、次のセクションで説明します。

5-2　ソフトウェアの設定

⚠ システムを設定するには、本ソフトウェアに管理者またはパワーユーザー権限でログオンする必要があります。OLYMPUS Stream をインストールしたユーザーには、自動的に管理者権限が割り当てられています。

ソフトウェアのインストール後に、システムを設定する必要があります。OLYMPUS Stream では、顕微鏡の電動部などの部品を正しく制御するために、この情報が必要となります。

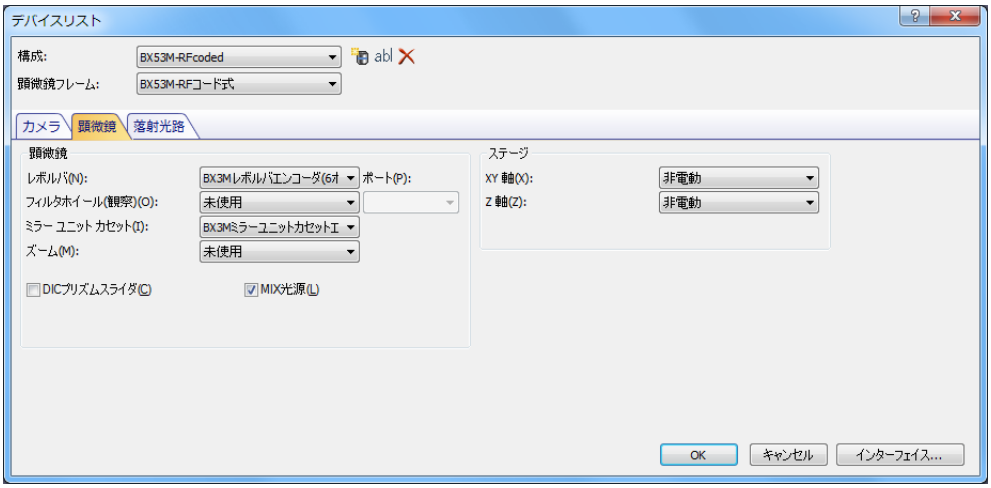
コード式または電動顕微鏡コンポーネント使用時の設定における前提条件

コード式または電動式コンポーネントの顕微鏡を使用する際は、以下の項目に注意してください。

- OLYMPUS Stream を実行している PC が､顕微鏡のコントロールボックスと他の制御ユニット (ある場合。たとえば、電動ステージなど) に接続している。制御ユニットを PC に接続する方法の詳細については、対応する各デバイスのマニュアルを参照してください。
- OLYMPUS Stream を起動する前に、コード式または電動式顕微鏡コンポーネントの制御ユニットの電源が入っている。
- 顕微鏡 (またはその他の電動 / コード式コンポーネント) と OLYMPUS Stream を実行しているコンピュータ間のインターフェイスが正常に設定されている。

使用するハードウェアの指定

本ソフトウェアの初回起動時には、[デバイスリスト] ダイアログボックスが自動的に表示されます。このダイアログボックスを閉じても、[取り込み] > [デバイスリスト] コマンドで再度表示することができます。このダイアログボックスで、使用するハードウェアを選択します。



- ➤ このダイアログボックスに表示される内容は、本ソフトウェアのインストール時に選択したハードウェアコンポーネントにより異なります。このため、[デバイスリスト] ダイアログボックスの表示が上の画面と異なる可能性があります。
- ➤ このダイアログボックスの詳細についてはオンラインヘルプを参照してください。

指定したハードウェアの設定

必要な項目をすべて選択し確認後に [OK] をクリックすると、[デバイスの設定] ダイアログボックスが表示されます。

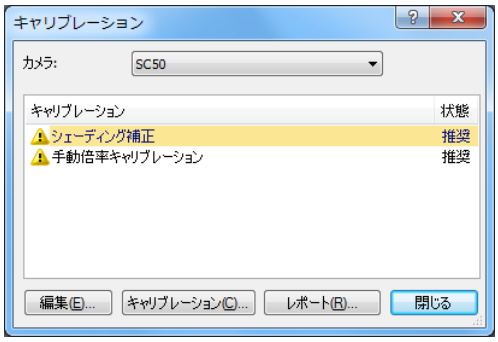
このダイアログボックスで、使用するハードウェアについてより詳細な設定を行ないます。まず、使用する対物レンズと、その対物レンズのレボルバ上の位置を指定します。本ソフトウェアで画像を取り込む際、ここで指定した対物レンズのみを選択することができます。また、電動の対物レンズの場合は、ここで指定したもののみ制御できます。本ソフトウェアでは、画像のキャリブレーションを正しく行なうために、画像の取り込み時に使用される対物レンズの情報が必要です。

- ➤ このダイアログボックスのすべての設定について、詳細はオンラインヘルプを参照してください。

システムのキャリブレーション

本ソフトウェアでは、キャリブレーションウィザードを使用して複数のキャリブレーションプロセスを実行します。システムを最適に使用するには、すべてのキャリブレーションプロセスを実行する必要があります。

[デバイスの設定] ダイアログボックスの [キャリブレーション ...] ボタンをクリックして、キャリブレーションウィザードを開始します。システムのキャリブレーションを後で行なう場合は、[取り込み] > [キャリブレーション ...] コマンドを使用します。



➤ 利用可能なキャリブレーションプロセスは、本ソフトウェアのインストール時に選択したハードウェアコンポーネントにより異なります。このため、[キャリブレーション] ダイアログボックスの表示が上の画面と異なる可能性があります。

システム復元ポイントを作成する

本ソフトウェアのインストールや、設定、キャリブレーションを新しく行った場合、これらの設定をシステム復元ポイント (SRP ファイル) に保存することができます。SRP ファイルは、コンテナのようなもので、本ソフトウェアの設定に関するユーザー固有のすべてのデータを格納しています。このファイルの形式は INI、XML、TXT、BIN などさまざまで、サイズも幅広く異なります。

システム復元ポイントを作成すると、以下の作業が可能となります。

- コンピュータにインストールされている本ソフトウェアを、システム復元ポイント作成時の状態に戻せます。これにより、構成およびキャリブレーションに対する不要な変更を元に戻すことができます。
- 本ソフトウェアを新しいコンピュータにインストールし、システム復元ポイントを使用することで、以前のコンピュータと同じ設定およびキャリブレーション環境を再現できます。これにより、本ソフトウェアを実行して顕微鏡の制御を行うコンピュータを簡単に変更することができます。

システム復元ポイントに保存される情報

- ハードウェア設定 (観察手法、デバイスリスト、デバイスの設定)
- キャリブレーションデータ
- レイアウト
- ユーザー非依存パラメータ。これは、システム復元ポイント保存時に [アクセス権限] で [パブリック] が選択されているすべてのパラメータです。たとえば、レイアウト、マクロ、データベーステンプレート、カメラ設定など、さまざまなパラメータがあります。
  注 : ユーザー固有のパラメータ (システム復元ポイント保存時に [アクセス権限] で [プライベート] が選択されているパラメータ) はシステム復元ポイントに保存されません。
  ユーザー固有のパラメータは、必要に応じて各自で保存するようにしてください。これらはデフォルトで各ユーザーディレクトリに保存されています。たとえば、「C:¥Users¥<username>¥AppData¥Local¥Olympus¥OSIS¥Stream」にあります。
- プログラムの追加設定

注 : システム復元ポイントが復元するのは本ソフトウェア関連のデータのみです。たとえば保存後にオペレーティングシステムに対して複数のアップデートを実行した場合、[取り込み] > [デバイス] > [システム復元ポイントを元に戻す ...] コマンドを実行しても、これらのアップデートがリセットされたり、何らかの形で変更されることはありません。

システム復元ポイントを作成する

1) [取り込み] > [デバイス] > [システム復元ポイントの作成 ...] コマンドを選択します。
   ➤ メッセージボックスが開き、この操作によりソフトウェアが再起動されるというメッセージが表示されます。
2) [OK] ボタンをクリックして、プロセスを続行します。
   ➤ MS Windows エクスプローラーが開きます。
3) システム復元ポイント (SRP ファイル) の保存先を指定して、[保存] ボタンをクリックします。
   ? SRP ファイルは、システムの設定が保存されているコンピュータには保存しないでください。さもないと、コンピュータが予期せず使用不能になった場合に、システム復元ポイントも失われます。
   ➤ ソフトウェアは自動的に終了し、再起動します。

システム復元ポイントを使用して復元する

注 : システム復元ポイントは、デフォルトで、本ソフトウェアが同じバージョンである場合にのみ使用できます。新しいバージョンのソフトウェアに対して古いバージョンのシステム復元ポイントを使用しようとすると、エラーメッセージが表示されます。ただし、バージョンの違いがわずかである場合もあるので、試してみることはできます。

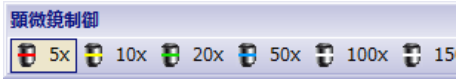
1) [取り込み] > [デバイス] > [システム復元ポイントを元に戻す ...] コマンドを選択します。
   ➤ メッセージボックスが開き、この操作によりソフトウェアが再起動されるというメッセージが表示されます。
2) [OK] ボタンをクリックして、プロセスを続行します。
   ➤ MS Windows エクスプローラーが開きます。
3) システム復元ポイント (SRP ファイル) の保存場所を参照して、ファイルを選択します。
4) [開く] ボタンをクリックします。
   ➤ ソフトウェアは自動的に終了します。
   ➤ システム復元ポイントに保存された設定で、ソフトウェアが再起動します。

5-3　最初の画像の取り込み

ソフトウェアの設定とキャリブレーションを終えたら、画像を取り込むことができます。以下の手順を実行してください。

1) [取り込み] レイアウトに切り替えます。それには [ビュー] > [レイアウト] > [取り込み] コマンドを使用します。

2) または、[顕微鏡制御] ツールバーで、画像の取り込みに使用する対物レンズのボタンをクリックします。画像を適切にキャリブレーションするには、使用する対物レンズの情報が必要です。



➤ 電動の顕微鏡をご使用の場合は、選択した対物レンズが自動的に光路に入ります。

3) 手動の顕微鏡をご使用の場合は、手動でレボルバを回転させて対物レンズを光路に入れます。
➤ 注 : 手動の顕微鏡をご使用の場合、画像を取り込むたびに [画像キャリブレーション] ダイアログボックスを表示することをお勧めします。この機能を有効にするには、[取り込み設定] ダイアログボックスで [取り込みの後、倍率を確認する] チェックボックスをオンにします。
[画像キャリブレーション] ダイアログボックスで、使用する対物レンズの倍率を確認したり変更したりすることができます。これにより、画像を正しくキャリブレーションできます。この機能の詳細についてはオンラインヘルプを参照してください。

4) [カメラ制御] ツールウィンドウで [ライブ] ボタンをクリックします。

➤ ライブ画像が表示されます。

5) 観察したい標本位置がライブ画像に表示されるように顕微鏡を操作します。それには、手動または [ステージナビゲータ] ツールウィンドウを使用して、ステージを移動します。

6) 手動または　[顕微鏡制御]　ツールウィンドウを使用して、標本に焦点を合わせます。

7) 色再現の状態をチェックします。必要に応じて、ホワイトバランスを実行します。それには、[ROI のホワイトバランス]　ボタンをクリックします。
このボタンは、[カメラ制御] ツールウィンドウのツールバーにあります。

8) 露出時間を確認します。露出時間は、自動で決定することも、手動で入力することもできます。

9) [解像度] グループで解像度を選択します。

10)[カメラ制御] ツールウィンドウで [スナップ] ボタンをクリックします。

- ➤ 取り込まれた画像がドキュメントグループに表示されます。
- ➤ データベースが開いていて、初期設定を変更していない場合は、[画像の挿入] ダイアログボックスが表示されます。

11)開いているデータベースがない場合は、[ファイル] > [別名で保存...] コマンドで画像を保存します。画像は TIF 形式で保存するようにしてください。

6 サービスアップデートの使用

Olympus Soft Imaging Solutions GmbH は、本ソフトウェアに対するサービスアップデートを無料でダウンロードできる [サービスアップデート] Web ページを多言語で提供しています。サービスアップデートは、インストールされている既存のソフトウェアを拡張または最適化します。

たとえば新しいデバイスをサポートする機能拡張や、既知の問題に対する解決策やバグ修正などの改善を行います。サービスアップデートの問題解決範囲は、ソフトウェアリリースと比べるとかなり狭くなっています。

サービスアップデートを表示してダウンロードする

本ソフトウェアに関連するサービスアップデートは、Olympus Soft Imaging Solutions GmbH の [サービスアップデート] Web ページで確認できます。各サービスアップデートについて、その内容についての詳細な情報を含む説明が記載されています。

サービスアップデートをインストールするには、まず適切なファイルをダウンロードする必要があります。サービスアップデートのファイル拡張子は EXE です。EXE ファイルをダブルクリックすることにより、インストールを開始できます。サービスアップデートが自動的にインストールされることはありません。サービスアップデートをインストールする前に、本ソフトウェアを終了する必要があります。

サービスアップデートの確認を自動または手動で開始する

インストール後に本ソフトウェアを初めて起動するときに、インターネット上で利用可能なサービスアップデートの有無を自動的に確認するかどうかを指定できます。

初期設定を変更しないと、本ソフトウェアの起動時に自動的に新しいサービスアップデートの有無は確認されません。この場合、定期的にサービスアップデートの確認を手動で開始する必要があります。

本ソフトウェアを実行しているコンピュータがインターネットにアクセスできる場合は、インストール後に本ソフトウェアを初めて起動するときに、新しいサービスアップデートの有無を自動的に確認する頻度 (たとえば毎日または毎月 1 回) を指定できます。これらの設定は、プログラムオプションで後からいつでも変更できます。

更新の確認が手動または自動のどちらで開始されたかにかかわらず、新しいサービスアップデートが利用可能な場合は、サービスアップデートに関する情報および Olympus Soft Imaging Solutions GmbH の [サービスアップデート] Web ページへのリンクを含むダイアログボックスが表示されます。新しいサービスアップデートをインストールすると、このプログラムはそれ以降のサービスアップデートの確認では表示されなくなります。

インターネットにアクセスできないコンピュータでサービスアップデートをインストールする

本ソフトウェアを実行しているコンピュータがインターネットにアクセスできない場合には、サービスアップデートをインターネットにアクセスできる別のコンピュータでダウンロードし、たとえば USB メモリにコピーします。この USB メモリを、本ソフトウェアを実行しているコンピュータに挿入することにより、そこからサービスアップデートをインストールできます。

既にインストール済みのサービスアップデートを表示する

サービスアップデートはユーザーに依存しません。つまり、サービスアップデートをインストールすると、そのプログラムは本ソフトウェアの他のすべてのユーザーによっても使用されます。サービスアップデートのインストールには管理者権限が必要です。

既にインストール済みのサービスアップデートは、本ソフトウェアのシステム情報で確認できます。

6-1 サービスアップデートのインストール

サービスアップデートをインストールには、下記の手順を実行します。この手順は、以下の前提条件が満たされている場合に有効です。

- 本ソフトウェアを実行しているコンピュータがインターネットにアクセスできる。
- 本ソフトウェアでサービスアップデートの自動チェックが無効になっている。
- 本ソフトウェアに対する新しいサービスアップデートが公開されている。
- 本ソフトウェアに対する管理者権限を持っている。
- EXE ファイルをインターネットからダウンロードできる。

1) 本ソフトウェアを起動します。

2) [ヘルプ] > [サービスアップデートの確認 ...] コマンドを選択します。
   ➤ これにより、本ソフトウェアに対して利用可能なサービスアップデートの確認が手動で開始されます。

3) [オンラインで確認] ボタンをクリックして、Soft Imaging Solutions GmbH の [サービスアップデート] Web ページで、本ソフトウェアに対して利用可能なサービスアップデートの有無を確認します。
   ➤ 利用可能なサービスアップデートがある場合には、[利用可能なサービスアップデート] ダイアログボックスが表示されます。

4) このダイアログボックスで https://serviceupdates.olympus-sis.com リンクをクリックして、Olympus Soft Imaging Solutions GmbH の [サービスアップデート] Web ページにアクセスします。
   ➤ Web ページがインターネットブラウザに表示されます。

5) 本ソフトウェアおよび製品バージョンが正しく選択され、またコンピュータで実行されているオペレーティングシステムも選択されていることを確認します。
   ➤ 本ソフトウェアによりこのデータが Olympus Soft Imaging Solutions GmbH の [サービスアップデート] Web ページに転送されるため、通常はこの情報は正しく選択されているはずです。

6) 各サービスアップデートの右側に表示される [詳細] ボタンをクリックします。
   ➤ [サービスアップデートの詳細] ダイアログボックスが表示されます。

7) サービスアップデートの内容に関する情報を読み、メッセージボックスを閉じます。

8) 本ソフトウェアを終了します。サービスアップデートのインストール中は、本ソフトウェアが起動していてはいけません。

9) また、MS-Word および MS-PowerPoint も終了します。これは、サービスアップデートに Olympus MS-Office アドインのより新しいバージョンが含まれる可能性があるためです。より新しいバージョンは、MS-Word および MS-PowerPoint が終了されている場合にのみインストールできます。

10) [詳細] ボタンの右側の [ダウンロード] をクリックして、サービスアップデートをダウンロードします。
   ➤ ブラウザによっては、ファイルを保存するかまたは実行するかを確認するメッセージが表示されます。この場合、ファイルを保存することを選択します。

11) ダウンロードしたファイルを、ブラウザのダウンロードフォルダまたは任意のフォルダに保存します。サービスアップデートのファイル拡張子は EXE です。

12) 実行 EXE ファイルをダブルクリックします。または、ブラウザに利用可能なダウンロードに関するダイアログボックスが表示される場合は、[実行] ボタンをクリックします。
   ➤ [< サービスアップデート名 > InstallShield ウィザード] が表示されます。進行状況バーにインストールのステータスが表示されます。
   ➤ インストールが終了すると、インストールが完了したというメッセージが表示されます。

13) [完了] ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。

14) 本ソフトウェアを再度起動します。

15) 新しいサービスアップデートが本ソフトウェアに表示されることを確認します。それには、[ヘルプ] メニューの [バージョン情報] コマンドを選択します。[バージョン情報] ダイアログボックスで [システム情報の詳細] ボタンをクリックします。ダイアログボックスのツリービューで、[サービスアップデート] を選択します。
   ➤ これにより、インストールされているすべてのサービスアップデートの概要が表示されます。新たにインストールしたサービスアップデートもこのリストに表示されているはずです。

16) さらに他のサービスアップデートをインストールするには、上記の手順を繰り返します。サービスアップデートは一度に 1 つずつインストールする必要があることに注意してください。一度に複数のサービスアップデートをインストールすることはできません。ただし、Olympus Soft Imaging Solutions GmbH の [サービスアップデート] Web ページで、一度に複数のサービスアップデートをダウンロードすることはできます。

本ソフトウェアを実行しているコンピュータがインターネットにアクセスできない場合

本ソフトウェアを実行しているコンピュータがインターネットにアクセスできない場合は、上記の手順に加えて、以下の手順を実行する必要があります。

- インターネットにアクセスできるコンピュータで、サービスアップデートの有無を確認します。
- ブラウザのアドレス欄に「https://serviceupdates.olympus-sis.com」と入力し、Olympus Soft Imaging Solutions GmbH の [サービスアップデート] Web ページで、正しいソフトウェアおよび製品バージョンを選択します。また、コンピュータで実行されているオペレーティングシステムも選択します。
- [結果の表示] ボタンをクリックします。該当するサービスアップデートが表示されます。内容に関する情報を表示し、サービスアップデートをダウンロードできます。
- EXE ファイルをデータ記憶媒体 (USB メモリなど) にコピーします。この USB メモリを、本ソフトウェアを実行しているコンピュータに挿入し、EXE ファイルを実行します。たとえば MS-Windows エクスプローラでファイルをダブルクリックすることにより実行できます。

7 ソフトウェアのディアクティベーション

この OLYUMPUS Stream ソフトウェアを同じ PC または別の PC に再度インストールする場合は、ソフトウェアをディアクティベートする必要があります。Olympus ライセンス情報にも記載されている以下の項目に注意してください。

以下の作業を行う前に、お使いのライセンスをディアクティベートする必要があります。

- 別のコンピュータでライセンスを使用してアクティベートする
- 前に作成した復元ポイントを使用する
- バックアップファイルをインストールして、システムを復元する
- コンピュータのハードウェアコンポーネントを変更する
- オペレーティングシステムを再インストール、または変更する

ソフトウェアのライセンスをディアクティベートする際も、必ず Olympus のセントラルアクティベーションサーバーで行います。本ソフトウェアのステータスが、このサーバー上で「ディアクティベート」となっていることが重要です。その場合のみ、このライセンスを再びアクティベートすることができます。

アクティベーションと同様、ディアクティベーションの方法はインターネット接続の有無と、使用する PC によって異なります。アクティベーションと同じ方法で行います。

1) インターネットベースでのディアクティベーション
   ➤ ソフトウェアのディアクティベーションを行う PC がインターネットに接続されている場合、ディアクティベーションはインターネット経由で自動的に行われます。もっとも早く手軽なため、この方法をとることをお勧めします。

2) ファイルベースでのディアクティベーション
   ➤ ソフトウェアのディアクティベーションを行う PC がインターネットに接続されていない場合、ディアクティベーションはインターネットに接続されたほかの PC を介して行われます。
   ディアクティベーションには、**追加の手順**が必要となります。ディアクティベーションが完了したことを示す確認ファイルを、Olympus のセントラルアクティベーションサーバーにアップロードする必要があります。この追加ファイルをアップロードしてはじめて、本ソフトウェアのステータスがアクティベーションサーバー上で「無効」となります。

3) コードベースでのディアクティベーション
   ➤ スマートフォンなどの携帯機器の使用またはアクティベーションホットラインへ電話して、文字コードの転送と入力によりソフトウェアをアクティベートした場合、ディアクティベーションもコードベースで**行う必要があります**。

どの方法でディアクティベーションしても、クライアント PC とアクティベーションサーバー間で交換されるデータは基本的に同じです。データには個人情報は一切含まれません。

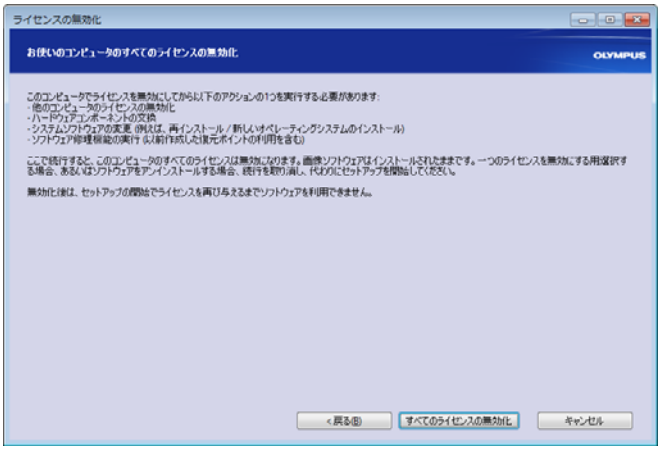
ソフトウェアディアクティベーションの際に交換されるデータ

最初のディアクティベーションでは、要求ファイル (RAF ファイル) とプロセスファイル (PAF ファイル) が、自動的にインターネット経由で Olympus のセントラルアクティベーションサーバーに送られます。

2 番目のディアクティベーションでも、同じファイルが交換されます。しかしこの方法では、ファイルはアクティベーションサーバーへの手動アップロードおよびダウンロードにより転送されます。ディアクティベーションの最後に確認ファイル (CAF ファイル) を保存し、アップロードする必要があります。

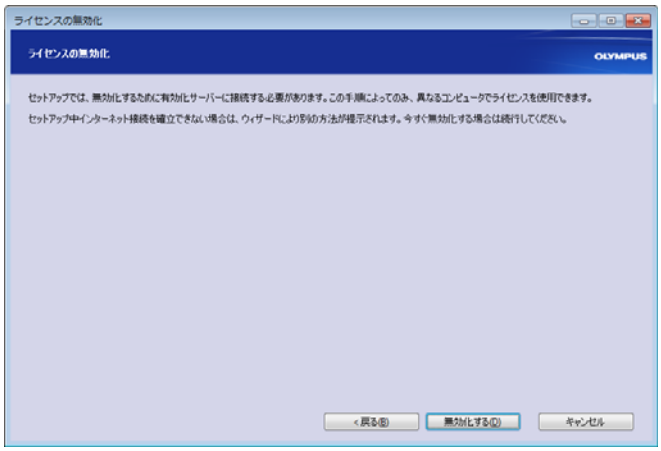
3 番目のディアクティベーションでは、アクティベーションホットラインへの電話などを利用し、文字コードを交換します。

7-1　インターネットベースでのディアクティベーション



1) PC　上のすべてのライセンスをディアクティベートする場合は、OLYMPUS Stream を開始し、[ヘルプ] > [ライセンスの無効化 ...] コマンドを選択します。

2) ダイアログボックス内の情報を読み、[すべてのライセンスの無効化] ボタンをクリックします。



3) [無効化] ボタンをクリックします。
   - ➤ PC は次にアクティベーションサーバーに接続します。
   - ➤ ディアクティベーションが完了すると、[無効化が成立しました] ダイアログボックスが表示されます。
   - ➤ ライセンスについての最新情報を含むファイルが、デスクトップに保存されます。
   - ➤ この HTML ファイルを印刷します。また、このファイルを別の PC に保存して、いつでもこの情報を参照できるようにしておきます。

4) [閉じる] ボタンをクリックします。

ファイルベースとコードベースのディアクティベーションに関する注意点

ファイルベースとコードベースでのディアクティベーションは、基本的にアクティベーションの手順と同様です。
ファイルベースでのディアクティベーションの場合、ディアクティベーションの完了後に確認ファイルをアクティベーションサーバーにアップロードする必要があります。
下記アドレスを入力し、アクティベーションサーバーへアクセスしてください。
http://www.olympus-sis.com/file-deactivation/

8 ソフトウェアのアンインストール

アンインストール対象

アンインストールされるのは OLYMPUS Stream ソフトウェアだけです。Microsoft SQL Server Express データベース管理システムをインストールした場合、このインストールは PC に残ったままとなります。

Microsoft SQL Server Express データベース管理システムは、コントロールパネルからしか削除できません。削除すると、そのデータベースをもう開くことはできません。このため、まず初めに今後データベースを決して使用することがないこと、またすべてのデータベースのバックアップを作成していることを確認してください。データベース管理システムの削除は、上記の確認後に行います。

ソフトウェアのアンインストール

OLYMPUS Stream をアンインストールするには、PC に管理者としてログオンしてください。

1) Microsoft Windows を開始します。
2) 提供された DVD を DVD ドライブに挿入します。
   ➤ この DVD を使用できない場合は、この章の最後に記載されている情報を参照してください。
3) [自動再生] ダイアログボックスが表示されたら、[setup.exe の実行] をクリックします。
4) [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックスが表示されたら、[はい] をクリックします。
5) [複数のインストールを決定] ダイアログボックスが表示されたら、[イメージングソフトウェアの保持] オプションを選択します。[次へ >] ボタンをクリックして、処理を続行します。
   ➤ [処理の選択] ダイアログボックスが表示されます。
6) [イメージングソフトウェアのアンインストール] オプションを選択します。[次へ >] ボタンをクリックして、処理を続行します。
   ➤ [ライセンスの無効化 (随意)] ダイアログボックスが表示されます。
7) [ライセンスの無効化 (推奨)] オプションを選択します。[次へ >] ボタンをクリックして、処理を続行します。
   ➤ 注 : ライセンスをディアクティベートせずにソフトウェアをアンインストールすることも可能ですが、他の PC に本ソフトウェアをインストールしてもアクティベートできないので、注意してください。
8) ディアクティベーションを実行します (32 ページを参照)。
   ➤ アンインストールは、ディアクティベーション完了後に始まります。
   ➤ ディアクティベーションが完了すると、メッセージボックスが表示されます。
9) 確認して、[完了] ボタンをクリックします。
   ➤ OLYMPUS Stream のインストール時に DP21 または DP26 カメラを選択した場合、デフォルトの IEEE1394 デバイスドライバがオリンパス固有の IEEE1394 デバイスドライバに置き換えられています。デフォルトの IEEE1394 デバイスドライバは、OLYMPUS Stream をアンインストールしても自動的に有効にはなりません。[デバイスマネージャー] > [イメージング デバイス] ダイアログボックスでこのドライバを手動でリフレッシュする必要があります。

本ソフトウェアに同梱された DVD を使用できない場合

お使いのオペレーティングシステムの機能を使用して、ソフトウェアをアンインストールできます。たとえば Windows 7 の場合は、右下の [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] > [プログラム] > [プログラムのアンインストール] を選択します。この場合、事前にソフトウェアをディアクティベートしておく必要があります (32 ページ参照)。オペレーティングシステムのアンインストール手順では、ディアクティベーションを行うことができません。

OLYMPUS®

www.olympus.co.jp

オリンパス株式会社

支店・営業所所在地

東　京	〒163-0914 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス	☎03 (6901) 4031
名古屋	〒460-0003 名古屋市中区錦2-2-2 名古屋丸紅ビル	☎052 (201) 9577
大　阪	〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-6-1 新大阪ブリックビル	☎06 (6399) 8005
広　島	〒730-0004 広島市中区東白島町14-15 ＮＴＴクレド白島ビル	☎082 (228) 1924
福　岡	〒810-0004 福岡市中央区渡辺通り3-6-11 福岡フコク生命ビル	☎092 (711) 1883

Olympus Customer Information Center
お客様相談センター

0120-58-0414 FAX 03 (6901) 4251

※携帯・PHSからもご利用になれます。

受付時間 平日8:45～17:30

取扱販売店名

住　所	
店　名	
担当者	